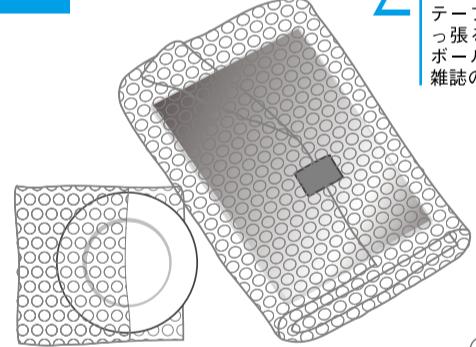


# 家の お手入れ

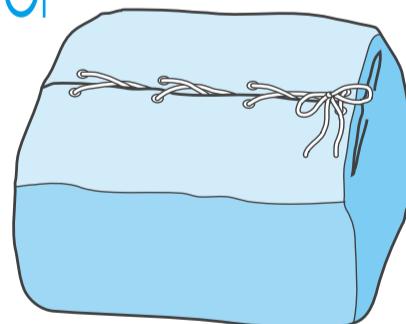


## 梱包や運搬に便利な用品

**1 エアーマット**  
クッキーの底などに入っている、空気の入った粒があるポリエチレンのシート。家具からはずしたガラス扉や、掛け時計、花瓶、美術品などのワレモノを衝撃から守ってくれる。2~3重に巻いておけば、多少の振動で壊れることはないので安心。120cm×10m程度のものをロールで購入しておくといい。また、このシートを袋状にしたものも販売されている。このタイプがあると皿など食器の梱包が手早くできる。



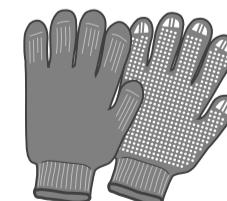
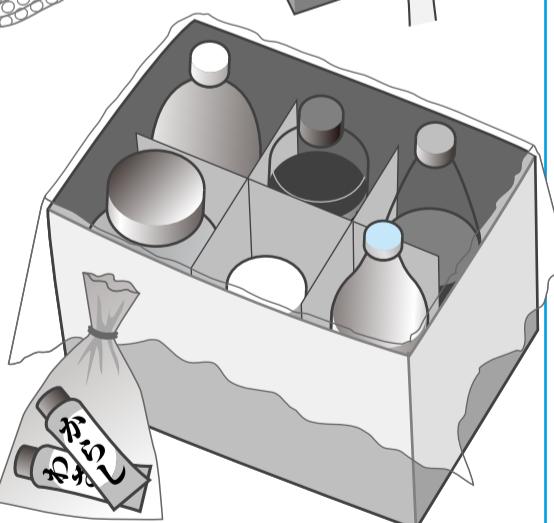
**3 ふとん袋**  
布製のふとん袋は、引っ越し後の収納にも便利。布製より安価な紙製のものもある。



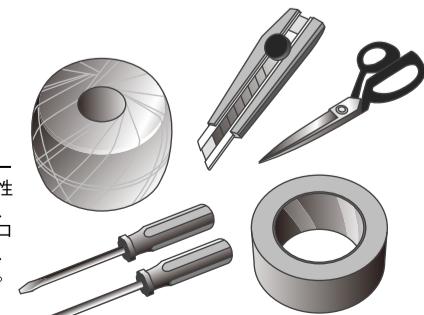
**5 荷札シール**  
箱には必ず、中身と運び込む場所を書き入れておこう。箱に直接書くのもいいが、白無地の荷札シールに書いて、決めた位置に貼るようにすれば、一目瞭然。取り扱いに注意したい荷物には、専用のシールも販売されている。



**4 ポリ袋**  
使い掛けの油や醤油などを運搬する時、大きめのポリ袋をダンボール箱の内側に敷いておけば、もし中身がこぼれても安心。ビン類は、ダンボールを切ったものなどでクリップを作って間に入れておくと割れも防げる。また、濡れたら困る衣類や本などもポリ袋に入れておくといい。小さなポリ袋は、小物の区分けなどに重宝する。



**6 すべり止めつき軍手**  
手のひら部分にゴムのつぶつぶのすべり止めがついた軍手。普通の軍手より、荷物が運びやすい。



**7 その他必要なもの**  
ビニールひも、布製ガムテープ、カッター、ハサミ、油性マジックペン、ドライバー、ダンボール箱、新聞紙、ボロ布など。古い毛布やシーツ、カーテンなどもあると便利。

## 引っ越しに関する主な手続き一覧表

(各市町村によって多少の違いがあるので確認してください)

1ヵ月~2週間前

家屋賃貸借契約解除の通告	貸主	契約条項を確認して期日までに報告する。一般には1ヵ月前までが多い。
電話の移転	N T T	「116」番に電話。古い番号に掛けてきた人に新しい番号を知らせる番号案内サービスも受けられる。
転校手続き	学校	担任教師に話し、転入するのに必要な在学証明書などを発行してもらう。

10日~1週間前

水道の使用中止届け	市区町村役所・水道局営業所	検針表などに書かれてある連絡先に電話すれば、引っ越し当日までに日割り清算してくれる。
電気、ガスの清算	各営業所	〃

1週間~前日まで

転出届、国民健康保険の資格喪失届、国民年金の住所変更、印鑑証明の廃止届	旧住所の市区町村役所	印鑑が必要。(印鑑証明がカードの場合は、そのカードも)。
郵便物転送届	郵便局	最寄りの郵便局所定の専用はがきか、官製はがきに、旧住所、新住所、引っ越し家族全員の名前、転出日を明記して、旧住所の本局に連絡すれば、1年間は転送してくれる。

引っ越し後

転校届	転入学先の学校	学校長に届け出る。入学願書のはが、前の学校の在学証明書等が必要。
転入届、国民健康保険の加入、国民年金の住所変更	新住所の市区町村役所	同じ市区町村で引っ越しの場合には転居届を。印鑑と転出届、国民年金の場合は年金手帳が必要。引っ越し後14日以内に届け出ること。
印鑑証明登録	新住所の市区町村役所	当日発行はできないので、必要になる前に早めに申請しておくといい。
運転免許証の住所変更	警察署、または運転免許試験場	住民票が必要。
自動車の登録変更	陸運支局	引っ越し後15日以内に届け出る。警察で手続きした車庫証明書、住民票等が必要。
犬の住所変更	市区町村役所または保健所	自治体によって届け出に必要なものが異なるが、鑑札、狂犬病予防注射済票と印鑑等が必要。

## 引っ越し準備

### One Point Advice

#### 引っ越しの前に

●家具配置の決定  
転居先の家の各部のサイズを測って正確な間取り図を書き、何をどこに置くか家具配置を考えましょう。これをしておかないと、家具が入り切らなかったり、荷物がバラバラになつて、たいへんです。

●冷蔵庫の霜取り  
引っ越し前夜か朝には冷蔵庫をカラにして、霜取りを。運

搬前に蒸発皿にたまつた水を忘れない捨ててください。その後、内部をアルコールで拭いておくと、いやな臭いを防ぐことができます。

●石油ストーブなどの灯油抜き  
石油ストーブ、ファンヒーターなどはタンクの灯油を抜いて空にしてから運ばない危険です。



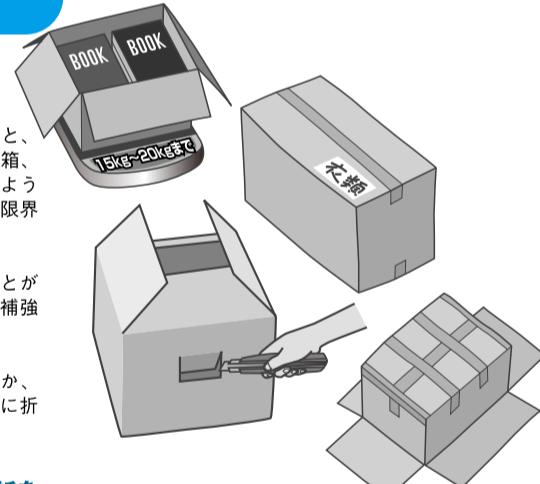
### 荷造りのコツ

#### ダンボール箱を使いこなす

●中身にあわせて大きさを決める  
本や食器など重い荷物を大きな箱に入れるとき、運搬がたいへん。重くなるものは、小さな箱、衣類など軽めのものは大きな箱に入れるようになしめよう。1箱の重量は15~20kgが限界と考えてください。

●しっかり補強する  
運んでいる途中で底が抜けた、ということがないように、底はガムテープでしっかり補強してから荷物を入れましょう。

●手掛けりをつける  
重い箱は持ちにくいくらい。ひもをかけるか、側面にカッターで切り込みを入れて内側に折り返して手掛けりを作つておきましょう。

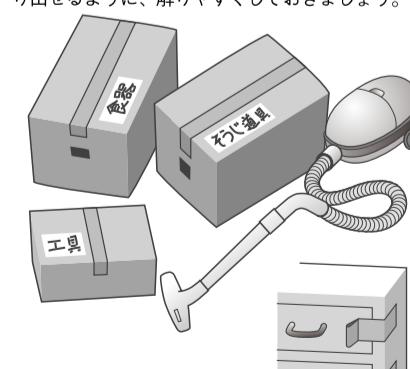


#### 本をしばる時は当て紙を

大切な本などを結束する場合は、四隅に厚紙を折つたものをはさむようにすると、ひもの跡がつくのを防ぐことができます。

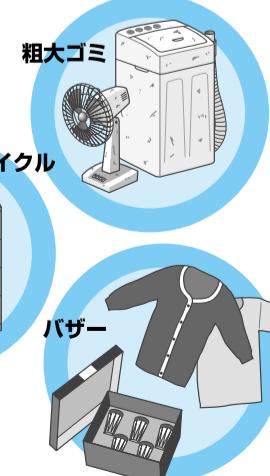
#### すぐ使うものはひとまとめに

工具や掃除道具のほか、タオルや引っ越ししてすぐに使う食器類(湯飲み、コップ、ヤカン、お茶葉など)は、ひとまとめにして、すぐに取り出せるように、解りやすくしておきましょう。



#### 不用品の処理は早めに

傷んでいない家具やきれいな衣類など、まだ使えるものは、バザーやガレージセール、リサイクルショップに出すなどしてできる限り有効利用しましょう。それで処理できない粗大ゴミは、受け持ちの清掃事務所に早めに連絡を取つて処分を。連絡先は役所、役場に問い合わせると教えてくれます。可燃ゴミ、不燃ゴミなども不当に処分すると罰せられるので、その地域のルールをきちんと守つて。そのためにも、早めに処理することが肝心です。



#### 貴重品の荷造り

通帳、印鑑や保険証書類、宝石などの貴重品は、人任せにせず、できるだけ手荷物にして自分で運びましょう。